

文庫雑感1.

ひとりでやってきた4年生。たくさん本を読むようにもなって、うれしいなと思っています。

今日もたくさん借りていってくれました。出された麦茶とおかしの容器を自分で下げて、「ありがとうございました！ ごちそうさまでした！」と言って帰りました。スタッフ2人、「いい子ね」と感激。

K.N (8月のある日)

文庫あれこれ◆空調に頼らず、窓からの空気が心地よい朝です (13日)。◆文庫を建てて丸7年、外回りのペンキがはげかけてきたので、母の残してくれた思いがけない年金で、母屋の屋根まわりと共に塗り直しました。でも仕上がりはもうひとつ。大枚をはたかのに。もちょっとお願いしてみようと厚かましく考えているところです。◆さて、台湾に住んでいる息子が夏休みに帰ってきて、その息子2歳と、3女の長女小学1年の4人でお上りさんよろしく、夏休み最後の31日にスカイツリーに出かけました。待つこと2時間半。設備も係員も景色もよかったけれど、私は初めて東京タワーに昇ったときの感動のほうが強かった！スカイツリーは遠くに在りて眺めるもの!◆先月、何気なく『はだしのゲン』10冊を入れたのですが、その後まあ、何と新聞紙上を賑わしたこと。みなさんはどう思われましたか?◆また、主人がコピーしてきてくれた新聞記事には図書館と書店問題に何人かの人が言及していました。文庫の本を決めるとき、私はついつい、書店でチェックしてから、ネット書店で購入してしまいます。これも功罪ですね、地域の書店さんには生き残ってほしい。ツタヤが武雄市の図書館を請け負ったことですが、一番腹が立つのは図書館行政というか、仕組み。民間は商売ですから頑張ります。この問題はこれくらいに。◆今月も文庫をお楽しみください。(西村)

これからの催し物

♪秋の夜長のおはなし会(大きい人向け)
10月19日(土)午後5:00~6:00
ゲスト:吉川仲子さん(朗読:藤沢周平の短篇)&
菊池とも子、大澤里子さん(まちだ語り手の会)
& おはなし沙羅会員

※秋の子どものおはなし会
10月20日(日)午前10:30~11:45

※クリスマスおたのしみ会 & 納会
12月22日(日)午前10:30~12:00
みんなで1年の無事を感謝しましょう。

◆今後の開館スケジュール◆

◆10月は通常19日(土)、20日(日)

◆11月は通常16日(土)、17日(日)

◆12月は変則21日(土)、22日(日)

※文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

♥毎月開館日(日)「子どものための小さなおはなし会(午前10:30~11:00)」があります♥

◆おはなし沙羅の勉強会◆

毎月開館日(土)午前11:00~13:00

引き続き、駐車場所にご協力ください。

年会費更新の件もお願いいたします。

NO. 85 2013年9月号

沙羅の樹文庫だより



小林 凜くんの秋の句

ススキのほ 百尾のきつね かくれてる(8歳)

茜雲 月の布団と なりにけり(9歳)

実石榴の 音たてて割れ 深呼吸(10歳)

煌々と また煌々と 月見どき(10歳)

蝸の 日を沈めしが 仕事かな(11歳)

『ランドセル俳人の五・七・五』より

♥世の中に、いじめはなくならないのでしょうか♥

生きる希望は俳句を詠むこと、と作者は言います。

掲載させていただきました。今月在庫した本です。

今年の十五夜は9月19日(木)とか、今もお家でおだんご作ってすすきを飾ってお月見するのでしょうか。

今年は満月ですって! お天気だといいですね。

夏のお疲れ、とれますよう。

✿この本、読みました✿

『語りつぐ者』(パトリシア・ライリー・ギフ

作 さ・え・ら書房 2013)

伊東市立対島中学校2年 田中咲穂

初めてこの本を見たとき、表紙の絵に驚きました。首が長く、変なものを頭につけていて、少し怖い目をした女の子。顔もかわいいとはいえません。「語りつぐ者」という題名から、この女の子が何か物語を受けつぐ話かなと、思いました。よく分からない本だったので、進んで読もうという気がなかなか起きませんでした。

でも、あるとき、急に読んでみようという気が起こりました。よく分からないまま、本を返すのは嫌でした。そこで、冒頭を読み始めると、表紙から想像していた昔の話ではなく、父親が、自分をおばさんの所にあずけると聞いて怒っている現代の女の子の話が始まりました。私の予想していた話と違っていたので、ますます気になっていきました。

初めて会うおばさんの家で1ヶ月暮らすことになった女の子・エリザベスは、反抗的な態度でおばさんの家に行きます。ところが、そのおばさんの家を見た、ズィーという少女の絵にエリザベスは惹かれていきます。

次に、話はズィーに移って、ズィーの住む村にも戦争が近づいてきている事や、ズィーの、何をやっても失敗する自分を変えたいという思いが分かります。

話は、エリザベス、ズィー、と交互に変わって進んでいきます。ズィーは戦争で両親を亡くしますが、やがて、いつも自分のそばにいた大切な人に気づきます。そして、その人と幸せになりました。

一方、エリザベスはズィーについて調べるうちに、おばさんとも仲良くなれたし、エリザベスと同じよう

にズィーのことを知りたいと思っているおじいさんのハリーとも出会いました。

でも私の一番印象に残っているのは、一番最後です。仕事ばかりの父親を知ろうとしなかったことにエリザベスは気づきました。かあさんの姉のおばさんの家にあずけてくれたのも父親でした。私が好きなのはここからで、迎えに来てくれた父親にかけよる場面です。エリザベスの気持ちの変化が出ているし、これからのふたりは、助け合っていくだろうと考えられるからです。ハッピーエンドが予想されるので、読み終わったあと、いい気持ちになりました。

※読み深く表現も素直で的確。さすが、ただ読んでいただけではないですね。読書力を感じました。(西村)

2013年9月に読んだ本についての感想

『永続敗戦論—戦後日本の核心』 白井 聡著 太田出版刊 2013年8月第1刷

この本は、「私らは侮辱のなかに生きている」という(原発反対10万人集会での)大江健三郎の発言で始められている。著者は36歳の若き戦闘的な論者。日本の敗戦処理が欺瞞的であり、戦争責任が十分に明確に追及されないまま、永年に亘り戦勝国アメリカの国益追及に翻弄されている自国の実態への日本人の愚かしい無自覚に我慢が出来ない。領土問題・北朝鮮問題・国体などに精細かつ真摯な分析がなされている。3.11と原発問題をきっかけに、我われ日本人の安易な生き方を根本に遡って再検討した憂国の書。

(引用された証人は大江健三郎のほか、笠井潔、佐藤栄佐久、孫崎亨、ブルース・カミングス、加藤典洋、江藤淳、大岡昇平、佐藤優、豊下梢彦、船橋洋一、豊田祐基子、福田恒存、久野収、鶴見俊輔、三島由紀夫、渡辺清、河原宏、片山杜秀、など。)

『人口減少社会という希望—コミュニティ経済の生成と地球倫理』 広井 良典著 朝日新聞出版刊 2013年7月第3刷

人口減少社会は絶望ではなく「希望」であるとするユニークな提言。視野を大きく取っているので、論点が広がりすぎ、すこし焦点が曖昧になっている嫌いはあるが、人口減少と高齢化という避け難い現実、ローカル化とコミュニティ重視で幸福追求ができるという展望を提示する。それにしても5ページにある日本の人口推移グラフを見て驚くのは、明治維新のとき日本人はまだ3,300万人しかいなかった、という事実。現状の日本の人口約1億2000万人超に対して、9,000万人とか6,000万人くらいというのも案外悪くないかなと思ったり。少子高齢化の中で対策を考え、希望を見出そうとする「デフレの正体」の著者藻谷浩介の主張とつながるところもありそうだ。

『完全版 人間の運命 1 次郎の生いたち』 芹沢 光治良著 勉誠出版刊 2013年1月初版

中学生の頃、同じ著者の「巴里に死す」は読んだように記憶しているが、以前から気になっていたこの本は結局今までについに読めなかった。日本では珍しい、注文原稿を一切断って、これ一本に絞っての書き下ろしの大長編小説。著者が亡くなってからも関係者が、著者が行った自分の著作への書き込み、修正などを加味して14巻の大作として整理し、さらに別刊2冊を加えつい最近全16巻の長大作となって出版された。だからわざわざ「完全版」となっているわけで、今読むのが正解だったともいえる。著者の一生を精細に語った驚異的な大作のようだ。日本の「チボー一家の人々」や「ジャン・クリストフ」とも言えようか。全巻を読

✿伊豆朝日新聞9月1日に森林浴さんの味わい深い随想「文学のある風景 伊東」が載っていましたね✿

9月に文庫に入った新しい子どもの本

絵本

『ねこのはなびや』(渡辺有一さく フレーベル館 2001) ※現在18刷 『たいせつなこと』(マーガレット・ワイズ・ブラウンさく レナード・ワイズガードえ うちだややく フレーベル館 44刷)

『よあけ』(ユリー・シュルヴィッツ作・画 瀬田貞二 訳 福音館書店 43刷) 『ぶた』(ユリア・ヴォリ 作 森下圭子訳 文溪堂 2001) ★長く読まれている絵本で今まで文庫になかったもの

『あかちゃんぐまはなにみたの?』(アシュリー・ウルフ文・絵 さくまゆみこ訳 岩波書店 2013)

『天使のえんぴつ』(クエンティン・ブレイク作 評論社 2008) 『おにいちゃんの歌はせかいいち!』(ウルフ・ニルソン文 伊がア・リカ絵 菱木晃子訳 あすなる書房 2012)

読み物

低学年:『ぶたのぶたじろうさん⑩ ゆめではないかとうたがいました。』(内田麟太郎文 スズキコージ絵 クレヨンハウス 2013) 『びゅんびゅんごまがまわったら』(宮川ひろ作 林明子絵 童心社 76刷)

高学年:『まだらのひも シャロック・ホームズ』(コナン・ドイル作 岩波少年文庫) 『海へ出るつもりじゃなかった 上・下』(アーサー・ランサム作 神宮輝夫訳 岩波少年文庫)

『クレイジー・サマー』(リタ・ウィリアムズ=ガルシア作 代田亜香子訳 すずき出版 2013) コレッタ・スコット・キング(キング牧師の妻)賞、スコット・オデル賞(児童文学で歴史を描いて傑作,に与えられる)ほか受賞★

『扉のむこうの物語』(岡田淳作・絵 理論社 2005)

※赤い鳥文化賞

『わたしをみつけて』(中脇初枝作 ポプラ社 2013)

※request 『ギャザリング・ブルー 青を蒐めるもの』(ロイス・ローリー作 島津やよい訳 新評論 2013) ※『ギヴァー 記憶を注ぐ者』(ニューベリー賞)の続編(文庫在庫)

『古事記 巻・式』(里中満智子著 小学館 2013)

※マンガ古典文学※歴史で習う前に読んでみよう!

『古事記』関係では、『古事記物語』(福永武彦作 岩波少年文庫)、『イラスト図解古事記』(PHP研究所)や大人向けに『古事記のものがたり』(サン・グリーン出版)『古事記』(梅原猛著 学研)などが文庫にあります。

寸評 ★クレイジー・サマー★ガルシア作

ほとんど記憶にない母に会いに、期待を胸にたどりついたオークランド。3人姉妹を出迎えた母セシル。だか熱い抱擁もなければまともに口もきかない。セシルの家に到着しても、食事を作ってくれることもなく、3人は近所に夕食を買いにいかにされる。そして翌日から、日中はブラック・パンサー党の運営するサマーキャンプに追いやられる。姉妹は自分たちの母親はクレイジーだと認識する。サマーキャンプで、姉妹は先生や友達に会い、いろいろな事を経験し感じながら過ごす。やがて、セシルとは、日々の出来事・会話の中で、互いの認識が変わっていく。姉妹が母親に期待していたもの、はたしてそれはかなうのか? 黒人公民権運動、ブラック・パンサー党の活動が勢力的な時代・場所で、子ども達が素直な意思を持ち行動していく姿が印象的な作品。

※邦訳が出たようです。文庫で買ってもらって読んでみてください。(ニューオーリンズにて 山本 詩乃)

♥早速在庫しました。中学生!読んでください。(さら)

ホットニュース

その①またまた、岡田幸樹くん快挙

(学校給食メニューで優秀賞。)

その②ナガヤお絵描きコンクールで金賞

多鹿弦くん、小川幹太くん、土屋桃子さん、土屋凜太郎くん そして稲葉啓介くん銅賞ゲット

みんなみんなすごい。おめでとう!!

♥おすすめだよ〜ん♥コーナー

岩波少年文庫のお薦め本の紹介します(第1回)

★数年前、実施した読者が選ぶこの1冊では・・・

1. モモ
2. 星の王子さま
3. ライオンと魔女(ナルニヤ物語)
4. トムは真夜中の庭で
5. ドリトル先生アフリカゆき
6. あのころはフリードリヒがいた
7. クマのプーさん
8. 床下の小人たち
9. 三国志
10. エーミールと探偵たち

※文庫の高学年向き棚の一番上にあります。ない場合でも、もっと大きな本でありますから、スタッフ

のおばさんに聞いてください。

9月に文庫に入った新しい大人の本

フィクション

『その青の、その先の、』(擲月美智子著 幻冬舎 2013) 『死神の浮力』(伊坂幸太郎著 文芸春秋 2013) 『たそがれ・あやしげ』(眉村卓著 出版芸術社 2013) 『さようなら、オレンジ』(岩城けい著 筑摩書房 2013) ※request 『こんなにも優しい世界の終わりかた』(市川拓司著 小学館 2013) 『鏡の花』(道尾秀介著 集英社 2013) 『政と源』(三浦しをん著 集英社 2013) 『チャイルド・オブ・ゴッド』(コーマック・マッカーシー著 早川書房 2013)

エッセイほか

『折口信夫の青春』(富岡多恵子、安藤礼二著 ぶねうま舎 2013) 『動員時代—海へ』(小川国夫著 岩波書店 2013) 『首里城への坂道』(与那原恵著 筑摩書房 2013) 『武田百合子 精選女性随筆集5』(川上弘美選 文芸春秋 2012) 『文豪たちの関東大震災体験記』(石井正己著 小学館新書) 『ソロー博物誌』(ヘンリー・ソロー著 山口晃訳 彩流社 2011) 『世紀の名作はこうしてつくられた』(エレン・F・ブラウン/ジョン・ワイリー二世著 一灯舎 2013) ※request

ノンフィクション

『それでも、日本は「戦争」を選んだ』(加藤陽子著 朝日出版社 2009) 『稲森和夫 最後の闘い』(大西康之著 日本経済新聞出版社 2013) ※request 『脱グローバル論—日本の未来のつくりかた』(内田樹ほか著 講談社 2013) ※request 『病の皇帝「がん」に挑む 上・下』(シッタールタ・ムカジー著 早川書房) ※ピューリッツァー賞受賞 『秘密基地の作り方』(尾方孝弘著 のりたけイラスト 飛鳥新社 2012) ※来年の夏休み、子どもたちとつくってみたい! ご協力を♥

詩・俳句

『ランドセル俳人の五・七・五』(小林凜著 ブックマン社 2013) ※request 『詩集 八月の夕風』(上田由美子著 コールサク社 2009)

文庫

『しずかな日々』(擲月美智子著 講談社現代文庫 2013)★ 『海辺の生と死』(島尾ミホ著 中公文庫) 『ようこそ、わが家へ』(池井戸潤著 小学館文庫) 『山海評判記/オシラ神の話』(泉鏡花、柳田国男著 東雅夫編 ちくま文庫) ※request 『四十九日のレシピ』(伊吹有喜著 ポプラ文庫) 『なくしたもののたちの国』(角田光代著 集英社文庫) 『一刀斎 上・下』(浅田次郎著 文春文庫 2013) 『死者の超え

なき声 上・下』(フォルカー・クッチャー著 創元推理文庫)

『「難死」の思想』(小田実著 岩波現代文庫) 『代表質問』(柴田元幸著 朝日文庫) 『原節子 わたしをかたる』(貴田庄著 朝日文庫) 『「疲れない!」技術』(西多昌規著 ソフトバンク文庫)

新書

『歌舞伎—家と地と藝』(那珂川右介著 講談社現代新書 2013)

寄贈

『人間の運命 15. 16』(芹沢光治朗著 勉誠出版) 『小袖の陰—(御広敷用人・大奥記録3)』『鏡の欠片—(御広敷用人・大奥記録4)』(上田秀人著 光文社文庫)

寸評 ★しずかな日々★ 擲月美智子著

第45回野間児童文芸賞、第23回坪田譲治文学賞受賞ですから、出発点は児童文学畑の人。

先月 request で『る姉』を入れて名前が印象に残り、新作『その青の、その先の』(幻冬舎)も入れたついでに、この本も読んでみた。ひとりの少年の5年生の輝ける夏休み、男の子同士のかけがいのない友情が胸をうつ。

夫を出産前に事故で亡くし、親と縁を切って息子とたった2人で暮らしてきた母親のふしぎな生き方が遠景にあるが、その母と別れて、突然のようにその存在を知った祖父と暮らす少年。85歳でその祖父が自ら老人ホームに入った後も、古い家にひとりで生きて行く成人した少年。ただひたすら、日常をまじめに普通の文章で紡いであるのだが、読み出したら、やめられなかった。今思い出しても胸がいっぱいになる。深い感動をおぼえた。

私が、少年と同じように、一人っ子で母と離れて祖母と暮らしたことも関係あるだろうが、この中につま